

## 30年3月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成30年 3月1日～ 30年3月10日

## 2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
3月分の回答企業数は6社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/3月	4月	5月
入荷動向	国産材	△ 16.7	0.0	0.0
	外材	△ 12.5	△ 12.5	12.5
在庫動向	国産材	16.7	8.3	8.3
	外材	37.5	△ 12.5	△ 10.0

・国産材ラミナの入荷動向は3月の減少から4月、5月は横ばいに。外材は3月、4月の減少から5月は増加に。  
・国産材ラミナの在庫動向は3カ月連続増加。外材は3月の増加から4月、5月は減少に。

## (2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/3月	4月	5月
国産材	8.3	16.7	10.0
欧州材	37.5	37.5	37.5
その他	66.7	50.0	16.7

・国産材ラミナの入荷価格動向はスギは横ばい、カラマツはやや強含み。  
・欧州材は強保合。  
・その他(米ヒバ)は強含み。

## モニターからのコメント

## (ラミナ荷動き)

・スギ、カラマツともに通常通りのボリュームを確保。岩手県内ではスギ丸太が不足気味である。カラマツも需要が多いため、集荷の安定を目標に。在庫量は一定量確保しているが、需給バランスを見ながら調整する。  
・国産材ラミナの入荷動向は当社ではヒノキ。3月は製品の動き低下により若干の生産調整を行った。それに応じて社外協力工場からの外部仕入れも3月は少し抑えるつもり。4月からは荷動き回復を予想しており購入量は例月並みに戻す。外材は、カナダバンクーバーエリアの冬季の天候は良好で積雪も少なく、材価上昇によって原木供給業者の造材意欲も高く、順調な伐採が進んでいる。弊社の米ヒバ材の在庫も増えつつあり、また原木の手当ても順調に進んでいる。従って、3月は米ヒバラミナの入荷も少しずつ増えてくる見込みとなっている。4月からは当面の在庫確保が完了したことから入荷量は増やさず、市況に応じて様子を見る。

・在庫動向は当社ではヒノキ。当社新製材工場が順調に立ち上がって来ており、自社製材量が大幅にアップ。一方、製品の荷動きが3月は低調な予想となっていることから、ラミナ在庫は増加する見込み。なお、ラミナ在庫が増えても当社ヒノキ原木の製材量は落とさず、そのままのペースで製材量は確保する予定。外材は当社の場合は米ヒバ。入荷動向でも記した通り、コストは別として、材料は集まりつつある。一方、製品販売は季節要因と製品価格の値上げにより荷動きが悪くなってきており、米ヒバ集成材の生産量も徐々に減少している。こちらも3月にはラミナ

## (ラミナ価格動向)

・スギは横ばいである。カラマツは、北海道では春からの運送費の上昇や製材賃の引き上げのため、4月から値上がりする。

・国産材の価格動向は当社の場合ヒノキ。積雪の影響で産地からの出材が少なく、瞬間的に需要が供給を上回る構図になっているため、原木価格が上昇している。従って、外部購入するヒノキラミナはごく若干だが値段が上がって来ている。ただし、3月には積雪の問題が改善し、ヒノキ原木の出材も戻ると予想され、原木価格も安定するので、ヒノキラミナの価格上昇も瞬間的な影響と思われる。

・欧州材は、世界同時好景気の様相を呈しており、米国を筆頭に世界的に木材需要は高まっている。従って、対日向けのオファーについても欧州サプライヤーは強気に出て来ており、1st QTの価格も軒並み値上がり。2nd QTのオファー価格も1st QTの価格+€5程度と見られる。

・依然として米ヒバ材は、米国の旺盛な需要に引っ張られて値段が上昇しており、手が付けられない。ただし、冬季のカナダバンクーバーの天候は例年に比べて好調で、2nd QT以降は潤沢な出材が期待でき、2nd QTには値上がりも一度踊り場を迎えるのではないかとと思われる。

## 30年3月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

## (3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/3月	4月	5月
生産動向	国産材	△ 25.0	8.3	16.7
	WW集成管柱	△ 37.5	△ 25.0	0.0
	RW集成平角	△ 50.0	△ 25.0	12.5
	米マツ集成平角	△ 37.5	△ 12.5	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	△ 41.7	8.3	16.7
	WW集成管柱	△ 37.5	0.0	0.0
	RW集成平角	△ 50.0	△ 25.0	0.0
	米マツ集成平角	△ 37.5	0.0	12.5
	WW集成平角	—	—	—

・国産材構造用集成材の生産動向は3月の減少から4月、5月は増加に。WW集成管柱、米マツ集成平角は3月、4月の減少から5月は横ばいに。RW集成平角は3月、4月の減少から5月は増加に。

・出荷動向は3月の減少から4月、5月は増加に。WW集成管柱3月の減少から4月、5月は横ばいに。RW集成平角は3月、4月の減少から5月は横ばいに。米マツ集成平角は3月の減少か

## (4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/3月	4月	5月
スギ集成管柱	△ 8.3	8.3	0.0	
ヒノキ集成柱	0.0	12.5	12.5	
ヒノキ集成土台	0.0	16.7	16.7	
カラマツ集成土台	0.0	0.0	10.0	
WW集成管柱	0.0	0.0	0.0	
RW集成平角	0.0	0.0	12.5	
米マツ集成平角	25.0	50.0	12.5	
WW集成平角	—	—	—	
米ヒバ土台角	33.3	0.0	0.0	
カラマツ集成平角	0.0	0.0	50.0	

・構造用集成材の出荷価格動向はスギ集成管柱は保合。  
 ・ヒノキ集成柱、土台角は強含み。  
 ・カラマツ集成土台は横ばい。  
 ・WW集成管柱は横ばい。  
 ・RW集成平角は保合。  
 ・米マツ集成平角は強含み。  
 ・米ヒバ土台角強保合。  
 ・カラマツ集成平角強含み。

## モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

・外気温が上昇してきているため生産効率は徐々に改善する。4月以降はフル稼働したい。スギ集成材メーカーは、生産調整や安値でスポット販売の話聞くが、弊社も例外ではない。4月以降は、新規の取引も始まるため増加する見込み。カラマツは全体的に物件が少ない。被災地の需要も落ち着いており、震災後では一番悪い。国産、輸入を問わず、各社が在庫を持っており、且つ物件動かず、さらに決算期の企業が多く、買い控えの動きが非常に強い。

・構造用集成材の生産動向は当社においてはヒノキ集成材。製品の荷動きは年明け以降季節的な要因（積雪などによる現場遅れ）と年度末に向けた在庫調整などが重なり悪化しつつあるが、弊社では製品在庫が全くない状態が長く続いたため、2月までは全力生産。3月も引き続き荷動き低調な予測のため、若干の生産調整を実施し、4月からまた全力生産に戻す計画。WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、競合するスギ集成材がマーケット認知が進み一定のシェアを得たことでWW集成管柱の需要自体が減少している。3月の荷動きが非常に低調であったことなどから無理な操業はせず、どちらかと言えば減産や生産調整を行っている物と思われる。RW集成平角は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、3月は予想以上に荷動き低調で、国内大手メーカーも製品在庫が増えており、生産調整や減産の話が聞かれる。4月からは大手建売系の住宅会社の新年度分の着工が始まって来るので、荷動き回復が期待できる。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米マツラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、今後値上げ、減産に転じる可能性がある。米ヒバ集成土台は、ラミナコスト上昇による値上げを断行。コストアップということで顧客の米ヒバ離れは急速に進行している。それに比して弊社の生産も減産を継続、今後弊社の生産の中心は完全にヒノキ集成材にシフトするだろう。

・出荷動向は、引き合いは季節要因（積雪などによる現場遅れ、年度末決算対策在庫調整）とマーケット自体の停滞によりあまり強くなく、年末年始を境に完全に潮目が変わった。今年度内は出荷減少が続く見込み。4月頃から若干の荷動き回復が期待できる。WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、競合するスギ集成材がマーケット認知が進み一定のシェアを得たことでWW集成管柱の需要自体が減少していること。3月の荷動きが非常に低調であったことなどから、出荷量も減少傾向にあるものと思われる。4月以降は市況も若干好転し、出荷も少し戻るか。RW集成平角は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、3月は予想以上に荷動き低調で、国内大手メーカーも製品在庫が増えており、出荷量も低調、4月には若干市況好転が期待されており、出荷も少し戻るか。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米マツ集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米マツラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、今後値上げ、減産に転じる可能性がある。米ヒバ集成土台は、ラミナコスト上昇による値上げを断行。コストアップということで顧客の米ヒバ離れは急速に進行している。出荷も年度内は減少が継続する見込み。

(構造用集成材の出荷価格動向)

・スギ集成管柱は、柱材としての相場は変わらない。しかし、輸入材の代替品としての需要が出はじめ、4m等の長材が春以降増加するが価格は柱ほど安くない。カラマツ集成土台は、北海道カラマツの値上がりがどれほどなのかによるが、様子を見ながら価格転嫁しなければならない。カラマツ集成平角は、4月まで荷動きが低調であるとの予想のため、実際に5月以降でなければ価格転嫁できないのではないかと。

・スギ集成管柱は当社生産品目ではないが、国内大手生産メーカーの東北の新工場の稼働が軌道に乗ったことや、マーケットそのものが年明け以降停滞していることもあり、横ばい推移が続く。ヒノキ集成柱は当社では年明け以降引き合いが落ち着いたものの、全力生産を維持している。この際に製品在庫の確保を進める。ヒノキ集成土台は、当社では年明け以降引き合いが落ち着いたものの、全力生産を維持している。この際に製品在庫の確保を進める。カラマツ集成土台は、当社生産品目ではないが、同業他社の話によれば、価格は横ばい状態の様様。WW集成管柱は、当社では取扱いないが、一般的な同業他社の情報によれば、値上がり傾向で来たものの、前述のスギ集成材が国内マーケットである程度のシェアを持つに至り、スギ集成材との価格バランスの兼ね合いから、価格は1,900円/本位での横ばい推移とのこと。荷動き悪化のため、価格は上げるチャンスもなく、一方原料コストはジリジリと上昇するため、国内メーカーは非常に苦しいポジションではないかと。RW集成平角は、ラミナコスト上昇、製品の引き合い強いということで、値上がり傾向。1月には現在の国内大手メーカーの販売価格で63,000円/m<sup>3</sup>から64,000円/m<sup>3</sup>くらいまで上昇してきたが、ここにきて荷動き悪化、これ以上の値上げについて当面様子見ではないかと。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米マツラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、今後値上げ、減産に転じる可能性がある。米ヒバ土台角は、この一年間で最も値段が上がった並材製品と言える。この一年間苦しい値上げ交渉を続けて来たが、2018年1月を以てほぼ値上げの交渉が完了した。値上げ後単価適用時期にズレがあるため、3月頃まで販売価格は上昇を続ける。